

昭 17	昭 19	昭 20	自 昭 22		年 月 日	概 要	摘 要
10	6	8	3	3	9		
15	1	15	26	25	7		
<p style="text-align: center;">高射砲第一七一連隊略歴 (防空第六一連隊)</p> <p style="text-align: center;">通称号 強第三一一二部隊</p>							
<p>軍令陸甲第七二号により防空第六一連隊臨時編成下令 大連において第二野戦防空隊司令部、第一四野戦防空隊司令部、旅順要塞重砲連隊の一部、旅順要塞防空隊を基幹として編成完結爾後同地付近の防空警備 軍令陸甲第四五号により高射砲第一七一連隊と改称 爾後停戦まで大連防空警備 停戦 大連にて武装解除 関東州金州西海岸において「ソ」軍収容所に収容され、「ソ」軍の労役に従事 大連出帆、帰還 隊 長 大佐 荒木 事吉</p>							

二の外

0104

昭											昭	年	月	日	要	略							
21											20	17			概	歴							
7	12	12	10	10	9	9	8	8	8	8	10	9											
6	5	4	9	7	18	8	23	22	15	9	8	7											
右收容所出発同日水師営收容所着											旅順收容所着	右收容所出発	大連埠頭收容所着	右收容所出発	金州收容所	大房身收容所	関東州金州病院に收容	大連において武装解除	停戦	日「ソ」開戦	島到着、同日より大連港の守備	旅順において旅順要塞重砲兵連隊を基幹として編成完結旅順出発、同日三山	軍令陸甲第七三号により編成下令
この間「ソ」軍の労役に従事																							

					昭
					22
		3	3	3	2
		28	23	22	4
	隊	大連出帆、 帰還	大連埠頭着	王家店屯出発	龍頭出発同日王家店屯収容所着
	長				水師営出発同日龍頭収容所着
	大尉				
	吉良				
	長記				

昭		年	月	日	概	要	摘要
至	自						
8	7	8	7		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 第一〇一警備隊司令部、第六九兵站警備隊と情報部および憲兵の一部を基幹として奉天市において、編成中、日ソ開戦となり第三方面軍司令官の隷下に入り奉天市内の警備にあつた。</p> <p>停戦</p> <p>現地召集者を召集解除した。</p> <p>奉天において武装解除し、文官屯に集結</p> <p>主力は、奉天第三五、第三六各作業大隊に編入</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河經由、入ソ</p>	<p>司令官 少将 久保宗治</p>	
10	9	9	10				

関東軍第一特別警備隊司令部 略歴

通称号 強第三四〇二部隊

二の外

0107

至自										略	年月日	概 要	摘 要	
10	9	9	10	9	9	9	8	8	8	8				7
10	16	15	16	16	15	10	22	17	15	10				10
<p>奉天出発 黒河経由「ソ」 第一中隊は第二六作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由「ソ」 第一中隊は第二六作業大隊に編入 黒河経由入「ソ」</p>										<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天省文官屯において第六九兵站警備隊の主力を基幹とし憲兵および情報部 ならびに現地召集者をもつて編成完結皇姑屯北陵の各警察署の警備に任じた。 停戦にともない現地召集者を召集解除 奉天において武装解除 第一中隊は皇姑屯において交戦 主力は、奉天収容所に入所 同地の第三五作業大隊に編入</p>				
<p>大 隊 長 中 佐 宮 崎 義 一</p>														

関東軍第一特別警備隊第一大隊 略歴

通称号・強第三七四〇二部隊

							昭 20		年 月 日	概 要
							8	7		
							9	9	9	関東軍第一特別警備隊第三大隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊
							20	9	1	
							27	8	8	軍令陸甲第一〇六号により編成下令 通化において第六二兵站警備隊、第六九兵站警備隊、憲兵隊を基幹とし現地応 召者をもつて編成完結、同日より通化付近の警備 停戦 吉林集結のため通化出発 朝陽鎮駅付近で部隊を解散 一部は吉林第二一〇作業大隊に編入 吉林出発 黒河経由、入「ソ」
							24	8	8	
							15	8	10	大隊長 少佐 後藤秀範
							10	8	10	
										摘 要

0110

						昭	年 月 日	概 要	摘 要
						20			
						7			
		10	9	9	8	8	8	10	10
		16	15	10	19	15	10	10	10
<p style="text-align: center;"> 関東軍第一特別警備隊第四大隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊 </p>									
<p> 軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天において第六二兵站警備隊、憲兵、情報部を基幹とし現地召集者をもつて編成完結、奉天市内の警備 停戦後も同地にあつて市内暴動の鎮圧 奉天において武装解除、同日、現地召集者召集解除 奉天第三五作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由入「ソ」 </p>									
<p style="text-align: center;"> 大隊長 大佐 平野 逸 爾 </p>									

四の外

0111

昭							年 月 日	概 要	摘 要
9	9	9	8	8	8	7			
20	15	10	19	15	10	10			
<p>満洲里經由、入「ソ」</p> <p>承德出発</p> <p>主力は承德第三作業大隊に編入</p> <p>承德において武装解除</p> <p>停戦と共に一部離隊</p> <p>停戦</p> <p>成完結、承德市在留邦人の保護、ならびに市内の警備</p>							<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p> <p>承德において第六九兵站警備隊の一ヶ中隊、憲兵、情報部承德支部を加へ、編</p>		
<p>大隊長 中佐 斉藤 鐘三</p>									

関東軍第一特別警備隊第六大隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

0113

至自										昭	年 月 日	関東軍第一特別警備隊第八大隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊	
										8			7
										10			10
大隊長	大佐	上野貞次	奉天出発	奉天第三六作業大隊に編入	文官屯に移動	奉天南満中学校において武装解除	停戦	奉天に移動	をもつて編成完結	軍令陸甲第一〇六号により編成下令	安東において第七九兵站警備隊を基幹とし憲兵および情報部現地応召者若干	概要	
			黒河經由入「ソ」									摘要	

六の外

0115

										年 月 日	
										昭	20
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7
11	25	22	20	15	14	11	10	10	10	10	10
<p>興安出発</p> <p>○</p> <p>金川小隊（長 中尉 金川 迪 明）</p> <p>鉄嶺において部隊解散</p> <p>奉天省鉄嶺着</p> <p>奉天省康平街通過法庫着、同地において武装解除、同日奉天省法庫発</p> <p>停戦同日奉天集結のため鄭家屯出発</p> <p>四平省鄭家屯着</p> <p>白城子発</p> <p>主力は興安出発龍江省白城子着</p> <p>興安市内の警備</p> <p>をもつて編成完結</p> <p>興安南省興安において第七四兵站警備隊を基幹として憲兵、情報部の一部を</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>											
										概	
										要	
										摘要	

関東軍第一特別警備隊第一〇大隊 略歴

通称号 強第三七四〇二部隊

0117

至自												
8	8	8	8	8	11	10	10	10	10	10	8	8
9	27	14	12	11	30	30	26	23	1	1	29	22
<p>王府において小隊長以下若干名は別行動となり齊々哈爾に向う 主力は番山において遊撃拠点を構成 番山出發途中、景山、土爾地哈を経て 小民屯着 齊々哈爾第一八作業大隊編入 齊々哈爾出發 滿洲里經由入「ソ」</p> <hr/> <p>野口小隊（長 野口少尉） 自動貨車により興安を出發したが途中自動車故障のため列車により新京經由 四平着 主力に合流のため四平出發 茂林において「ソ」軍と交戦し部隊解散</p> <hr/> <p>阿爾山派遣隊（長 大尉 立花正雄） 關東軍情報部興安支部分派機関から編入すべき要員をもつて阿爾山において 特別警備隊第一〇大隊の一部を編成中日「ソ」開戦</p>												

七の夕

	8
	10
	<p>阿爾山において「ソ」軍と交戦後牛分台↓五叉溝↓西口において戦闘を交へ 爾後第一〇七師団と行勅を共にし損害多数を出した。</p> <p>大隊長 大佐 金川 耕作</p>

至自至自至自										昭	年 月 日	関東軍第一特別警備隊教育隊 略歴 通称号 強第三七四〇二部隊	
										20			
10	10	9	9	9	9	8	8	8	7	8			7
16	10	16	15	15	10	22	15	10	10	10	10		
奉天第三六作業大隊に編入 奉天において武装解除 奉天出発 黒河経由入「ソ」 大隊長 中佐 志村 行雄										軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天において第六二兵站警備隊を基幹とし憲兵および現地応召者をもつて編 成完結 同日より市内の警備 停戦		概	要
												摘要	

		昭					昭	年月日	本溪湖警備隊本部 略歴
		20					19		
		10	9	9	8	7	10		
		19	27	21	15	1	11	<p>通称号 満第七〇四部隊 強第一三〇七部隊</p>	
隊長	大佐	<p>軍令陸甲第一三五号により編成下令奉天省本溪湖宮の原にて編成人員約將校四名、下士官六名、兵二〇名</p> <p>昭 20 7 1</p> <p>昭 20 8 15</p> <p>昭 20 9 21</p> <p>昭 20 9 27</p> <p>昭 20 10 19</p> <p>昭 20 10 27</p> <p>昭 20 11 1</p>							
代理中尉	上野貞治 (20・7・30まで)	<p>昭 20 7 1</p> <p>昭 20 8 15</p> <p>昭 20 9 21</p> <p>昭 20 9 27</p> <p>昭 20 10 19</p> <p>昭 20 10 27</p> <p>昭 20 11 1</p>						概要	
		<p>昭 20 7 1</p> <p>昭 20 8 15</p> <p>昭 20 9 21</p> <p>昭 20 9 27</p> <p>昭 20 10 19</p> <p>昭 20 10 27</p> <p>昭 20 11 1</p>						摘要	

0122

昭 20	昭 21	昭 21	年 月 日	概 要	摘 要
8	8	1			
21	15	4		<p>軍令陸甲第一号により奉天省本溪湖にて編成し常置人員四名（将校一名下士官三名）をもつて本溪湖警備隊本部内において勤務</p> <p>爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦時警備召集は実施せず部隊解散</p> <p>中隊長 中尉 鈴木光雄</p>	

特設警備第六〇三中隊 略歴

通称号 強第二六九三部隊

0123

				昭 19	年 月 日	特設警備第六〇四工兵隊 略歴 通称号 強第三一五八部隊
			昭 20	9		
			昭 19	8		
			昭 19	15		概 要
			昭 19	10		
						摘 要

隊長 少尉 坂井 静雄

本溪湖にて部隊解散

停戦

以後警備召集を実施

爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施

常置人員四名（将校一名、下士官三名）

軍令陸甲第一二八号により奉天省本溪湖にて編成

0124

昭 19		昭 20		昭 21		昭 22		昭 23		昭 24		昭 25		昭 26		昭 27		昭 28		昭 29		昭 30	
年	月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

			昭 20	昭 19	年 月 日	
			8	8		1
			18	15		4
<p>部隊解散</p> <p>中隊長 中尉 伊藤 登</p>			<p>停戦</p> <p>警備召集を実施</p>	<p>実施</p> <p>軍令陸甲第一号により奉天省撫順において編成 常置人員不詳、爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を 実施</p>	<p>概要</p> <p>要</p>	
					摘要	

特設警備第六〇二中隊 略歴

通称号 強第二六九二部隊

0126

			昭	昭	年月日	概要	摘要
			20	19			
			8	8			
			8	9			
			19	8			
隊	長	少尉	真船	涉		奉天省撫順において編成 常置人員（将校一名、下士官三名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施 停戦 部隊解散	通称号 強第三一五七部隊 略歴

0127

昭			昭			年 月 日	鞍山警備隊本部 略歴
20			19				
8	8	8	10	11	11		
	21	15	1				通称号 満第二九二部隊 強第一三〇九部隊
隊	長	大佐	上田利三郎				概要 軍令陸甲第一三五号により奉天省鞍山において編成（人員約四三名） 同地付近の警備隊下特設警備隊の教育を実施 以降終戦時までに警備召集を実施しているが細部不詳 停戦 部隊解散
							摘要

0128

			昭 20	昭 19	年 月 日	
			8	8		1
			20	15		4
<p>部隊解散</p> <p>中隊長 中尉 中条善蔵</p>			<p>停戦</p> <p>警備召集を実施</p>	<p>士官三名)</p> <p>爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施</p>	<p>概要</p> <p>要</p>	
					摘要	

特設警備第六〇一中隊 略歴

通称号 強第二六九一部隊

0129

昭 20			昭 19	年 月 日	特設警備第六〇五工兵隊 略歴 通称号 強第三一六〇部隊
8	8	8	9		
20	15	14	8		
隊 長 少尉 岡本武雄 鞍山にて部隊解散 停戦 警備召集を実施 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 一名、下士官三名)			軍令陸甲第一二八号により奉天省鞍山において編成、常置人員四名(将校	概	要
				摘要	

0130

至 自		昭		昭	
		20		19	
12	11	10	9	8	8
2	26	11	27	3	24
				13	16
					19
中隊長		中尉		佐藤 倉 威	
黒河経出入「ソ」		錦県出発		錦県第一作業大隊に編入	
		錦県に集結		阜新において武装解除	
		警備召集を実施		爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施	
		錦州省阜新に移駐		常置人員四名（将校一名、下士官三名）	
		軍令陸甲第四六号により奉天において編成			
		概		要	
		摘要			

特設警備第六〇六中隊 略歴

通称号 強第二六九六部隊

0131

昭			昭	年月日	通称号 強第三一五四部隊	特設警備第六〇二工隊 略歴
20			19			
8	8	8	9			
	19	15	13	8	概要	要
部隊解散	停戦	警備召集を実施	附近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施	第六二兵站警備隊の兵舎を共用し、第六二兵站警備隊が教育を担当し、同地 常置人員六名（将校一名、下士官五名） 軍令陸甲第一二八号により奉天において編成		
隊長 少尉 野々宮 義一					摘要	

0132

					昭	年 月 日	特設警備第六〇六工兵隊略歴 通称号 強第三一六八部隊
					19		
					9		
		8	8	8	8	8	概 要
		20	15	13	9	8	
隊	長	中	尉	諸	橋	弘	要
<p>部下官三名) 軍令陸甲第一二八号により安東省安東において編成常置人員四名(将校一名 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 日「ソ」開戦 警備召集実施 停戦 部隊解散</p>							
							摘 要

0133

				昭 20	昭 19	年 月 日	特設警備第六〇七工兵隊 略歴	
			8 8 8	9	8			概
			18 15 10	8	8			
	隊	長	中尉	伊藤喜貞	部隊解散	停戦	警備召集実施	
						要	軍令陸甲第一二八号により大連において編成 常置人員四名（将校一名下士官三名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施	
						摘要		

十五の外

0134

549

昭 20	昭 19	年月日	概要	摘要
8 8	1		<p>軍令陸甲第一号により奉天において編成 常置人員五名（将校一名、下士官四名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施（奉天周辺より約六〇〇名召集） 部隊解散</p>	
16 15	4			
			<p>隊長 少尉 磯 頭 吉</p>	

特設警備第六五二大隊 略歴

通称号 強第三一六二部隊

0135

550

昭 20	昭 19	<p style="text-align: center;">特設警備第六五三大隊 略歴</p> <p style="text-align: center;">通称号 強第三一六三部隊</p>
8 8	1	
20 15	4	
<p style="text-align: center;">隊 長 中尉 平賀 解 輔</p> <p style="text-align: center;">部隊解散</p>	<p>軍令陸甲第一号により奉天において編成 常置人員五名（将校一名、下士官四名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間教度にわたり召集し教育を実施 警備召集を実施</p>	
		<p style="text-align: center;">摘 要</p>

0136

昭 19		自		至		年月日	概要
11	8	8	8	7	7		
15	18	17	9	21	9	10	19
<p>軍令陸甲第四六号により編成下令 興安北省海拉爾において編成完結。常置人員（將校一名、下士官四名） 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度にわたり召集し教育を実施 教育召集約六五名は独立歩兵第五八五大隊 教育召集約八〇名は独立歩兵第五八五大隊 八月九日教育を終了したが日「ソ」開戦となつたので召集解除を取止め引続 防衛召集（約一七〇名）を実施して大隊を編成、直ちに市内警備に任じ たが「ソ」軍進攻急のため同地二地区陣地に入り独立混成第八〇旅団長 の指揮下に入る。 主力は海拉爾二地区陣地、一部は藤田少尉指揮により三地区において戦 闘に参加、その間多数の戦死傷者をだした。 戦闘行動を中止し主力は二地区陣地において武装解除後海拉爾兵器廠に 集結。 海拉爾第一、第二作業大隊に編入</p>							
							摘要

特設警備第六〇六大隊

通称号 強第二六〇六部隊

0137

					昭 20	至	自	至	自
	10	10	9	8	8	8	11	11	11
	11	9	中旬	21	18	17	25	18	15
	<p>海拉爾出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p> <p>藤田少尉以下三地区派遣隊は同地陣地を脱出したがその後博克図方面に後退途中多数の戦死行方不明者をだした。</p> <p>南屯着</p> <p>牙克石着</p> <p>興南東省博克図において同地第五作業大隊に編入。</p> <p>博克図出發</p> <p>滿洲里經由入「ソ」</p>								
隊長	少佐 坂水悟郎								

一の内

昭 20												年 月 日	概 要	摘 要	
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自				
10	10	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7			
16	5	18	16	10	8	6	19	18	15	9	30	10			
黒河経由入「ソ」 奉天出發 奉天第三一、第三二作業大隊に編入 奉天（東北大学）において武装解除 文官屯へ移動 現地召集者を召集解除 停戦 奉天において日「ソ」開戦、開戦とともに各中隊は東陵において作戦準備 結 奉天省奉天において関東防衛軍臨時通信教育隊よりの要員を基幹として編成完 軍令陸甲第一〇六号により編成下令															

電信第五四連隊略歴

通称号 満第五七九七部隊
強第三七八〇九部隊

0139

				昭 19	年 月 日	第一一遊撃隊略歴 通称号 才三方面軍臨時遊撃隊 満才九八〇部隊 強才三七八一〇部隊
				9		
7 30	7 10	7.5 中旬 上旬	1 11 11 9 31 11 10 10			
<p>軍隊区分により才三方面軍及才四軍隷下部隊からの差出し人員をもつて才三方面軍臨時遊撃隊を齊々哈爾において編成、同日才三方面軍司令官の指揮に入る。</p> <p>編成</p> <p>本部（長 中佐 有富和夫）</p> <p>大隊 三</p> <p>遊撃隊編成基幹要員の集合教育を齊々哈爾において実施。</p> <p>遊撃隊編成要員の総合教育（野外訓練）を齊々哈爾札蘭屯、神武屯において実施。</p> <p>才一大隊を才四軍司令官の指揮に入らしめて齊々哈爾に殘置し、本部才二、三大隊は奉天省新民に移駐。</p> <p>軍令陸甲才一〇六号により第一一遊撃隊編成下令。</p> <p>臨時遊撃隊（除才一大隊）を基幹として才三方面軍隷下部隊からの差出し人員をもつて新民において編成完結、同地において遊撃戦準備。</p>						
<p>摘要</p>						

0141

昭 昭 至 自												昭	年 月 日	通称号 強第三三〇二部隊	
20		10		9		8		8		7					16
8	8	8	8	8	5	11	9	8	8	8	7	7		概	
20	18	17	15	9	15	18	11	25	20	16	14	30	16	要	
奉天北陵において武装解除															
奉天に帰還															
各小隊はそれぞれの位置を出発															
停戦															
日「ソ」開戦															
第一小隊は錦西、第二、第三小隊は葉柏樹に移動															
奉天に移駐同日より同地付近の警備および建築作業															
東安省鶏寧に到着同地付近の警備															
大連港上陸、同日関東州界通過															
字品港出帆															
仙台出発															
特臨編第一六令附第一〇二号により編成下令															
仙台において野砲第二連隊より基幹要員を抽出し編成完結															
概要															
摘要															

建築勤務第三四中隊略歴

通称号 強第三三〇二部隊

0143

至 自			
10	9	9	9
15	30	14	10
<p>奉天第一七作業大隊に編入 奉天出發 黒河經由入「ソ」</p> <p>中隊長 大尉 関根五郎</p>			

0144

昭										昭
20										20
8	8	8	7	3	9	8	8	8	7	7
22	15	9	28	25	8	22	15	9	28	20
<p>第七九兵站警備隊の改編によりその主力をもつて臨時独立歩兵第九〇一大隊を編成し、本部第二中隊は大連市周水子。第一中隊は金州、第三中隊は貔子窩第四中隊を旅順の警備のため派遣</p> <p>本部第二中隊 大連市周水子着、同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦 停戦</p> <p>周水子において武装解除</p> <p>大房身に移動、「ソ」軍命により旅大地区において諸作業に従事 大連港出帆帰還。</p> <p>第一中隊 金州着同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦 停戦</p> <p>金州において武装解除。爾後「ソ」軍の命により旅大地区の諸作業に従事</p>										
<p>臨時独立歩兵第九〇一大隊略歴</p> <p>通称号 強弟一三一四〇部隊</p>										

二の内

昭 22	昭 20	昭 22	昭 20	昭 22
3	8	8	8	7
26	22	15	9	28
26	8	24	15	9
28	7	28	9	25
昭 22	昭 20	昭 22	昭 20	昭 22
3	7	3	8	3
26	26	26	24	25
大連港出帆帰還	第三中隊	大房身に移動、「ソ」軍命により旅大地区において諸作業に従事	金州に集結、武装解除	大連港出帆帰還
水師管において武装解除。爾後旅大地区において「ソ」軍の諸作業に従事	第四中隊	大連港出帆帰還	停戦	大連港出帆帰還
日「ソ」開戦	関東州旅順へ移動のため出発	大連港出帆帰還	停戦	大連港出帆帰還
旅順着、同地付近の警備	旅順着、同地付近の警備	大連港出帆帰還	停戦	大連港出帆帰還
日「ソ」開戦	日「ソ」開戦	大連港出帆帰還	停戦	大連港出帆帰還
停戦	停戦	大連港出帆帰還	停戦	大連港出帆帰還
大連港出帆帰還	大連港出帆帰還	大連港出帆帰還	大連港出帆帰還	大連港出帆帰還

隊長 大尉 若杉 東

二つ外

昭	昭	昭	昭	年	才三野戦補充馬廠略歴 通称号 満第三三六部隊、強第二六五四部隊
20	16	15	14	月	
8	8	7	12	日	
9	4	16	10	9	1
<p>日「ソ」開戦</p> <p>爾後同地において軍馬の購入、調教、輸送補給等に従事</p> <p>同時に洮南、海拉爾に分廠を設置</p> <p>白城子において編成完結</p> <p>関東軍補充馬廠白城子支廠と改称</p> <p>特臨編第一六令付第一三九号により編成改正下令</p> <p>関東軍補充馬廠白城子支廠と改称</p> <p>軍令陸甲第一五号により編成改正下令</p> <p>爾後同地において馬匹の購入、育成、調教、補充輸送等に従事</p> <p>豊橋臨時補充馬廠より調教師約五〇名導入</p> <p>錦州省錦県において関東軍第三、補充馬廠編成完結</p>					
					概要
					摘要

0147

至自						
1110	9	9	9	9	8	8
2410	29	23	10	2	18	12
廠長	大佐	遊佐	主一			
黒河経由入「ソ」	公主嶺出発	公主嶺第二作業大隊に編入	同地において武装解除	吉林省公主嶺に到着	行軍中停戦を知る	主力は海拉爾分廠と合流し新京に向け白城子出発
						当時軍馬購入、輸送等のため若干の者は赤峯索倫旗南屯、満洲里方面に派遣されていた。

										至自	
										昭 16	
										昭 17	
										昭 18	
										昭 19	
4	11	8	2	12	12	12	12	12	12	3	129
10					29	27	21	20			
<p>一部をもつて、黒河省猪肚河子地区の道路建設隊の医務担任（軍医、一下士官一、兵数名派遣）</p> <p>第四軍隷下の第七一〇部隊の実施する黒河省四季屯陣地構築の医務担任</p> <p>一部は公主嶺陸軍病院援助のため山神府出発</p> <p>公主嶺着 業務援助</p> <p>部隊主力は奉天省、熊岳城陸軍病院援助のため山神府出発</p> <p>熊岳城着、爾後同地において病院業務援助</p> <p>公主嶺派遣者原隊（熊岳城）に復讐</p> <p>陣地構築隊（富拉爾基の独工大隊編成担任）の医務関係業務のため一ヶ班を黒河省三道卡に派遣</p> <p>大阪陸軍病院より兵約一〇〇名編入</p> <p>黒河省猪肚河子及四季屯に派遣された者は原隊（熊岳城）に復讐</p> <p>奉天、鉄嶺陸軍病院に業務援助のためそれぞれ軍医一、薬剤師一、下士官兵約五〇名派遣</p>											

											昭	
											20	
11	11	11	11	10	10	9	9	8	8	8	昭	
20	20	7	5	29	28	15	13	20	15	9	昭	
将校二、下士官一、兵一〇、看護婦一〇名は八路軍に留用	将校は奉天所在の病院において業務援助、その後大部の者は昭和二十一年六月頃までに帰還	満洲里経由入「ソ」	奉天出発	奉天第五九作業大隊に編入	奉天北陵に集結	第四陸軍病院閉鎖	奉天着、同地において第四陸軍病院開設	熊岳城出発	病院主力は奉天省熊岳城において武装解除	奉天および鉄嶺陸軍病院に派遣中の者は所生部隊と同行動	停戦	日「ソ」開戦

0151

